









決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
				 	  

派遣承認要求書

令和4年 6月27日

栗原市議会議長 殿

栗原市議会議員 尾形勝通 

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	令和 4年 7月 5日 (火) 8時00分から 令和 4年 7月 6日 (水) 16時00分まで
派遣先	・秋田県能代市大森「能代エナジウムパーク」 ・青森県青森市新町「酸ヶ湯キャンプ場」
派遣目的	・六角牧場風力発電計画は騒音や土砂崩れ等の環境被害が予想される。先進地の能代エナジウムパークを視察し住民生活に与える影響について視察研修する。 ・市では栗駒高原にキャンプ場を計画している。先進地の青森「酸ヶ湯キャンプ場」を視察し、持続可能で利用しやすいキャンプ場のあり方を視察研修する
経 費	7,300円 ホテルルートイン青森駅前宿泊費
派遣議員氏名	尾形勝通
議長依頼文の要否	要 <input type="radio"/> 否 <input checked="" type="radio"/>
備 考	

※ その他資料があれば添付願います。



栗原市議会会派 視察行程表

日程：令和4年7月5日(火)～6日(水)

月日	行 程	発	着	摘 要
7/5 (水)	栗原市役所正面玄関集合・出発			レンタカー
	栗原市役所 ～ 道の駅 あきた港	8:00	11:15	道の駅 あきた港 秋田県秋田市土崎港西1丁目9-1 TEL:018-857-3381
	11:15～12:15 道の駅 あきた港 にて昼食			
	道の駅 あきた港 ～ 能代エナジウムパーク	12:15	13:15	能代エナジウムパーク 秋田県能代市大森1-6 TEL:0185-52-2955
	13:30～15:30 能代エナジウムパーク 行政視察			
7/6 (木)	能代エナジウムパーク ～ ホテルルートイン 青森駅前	15:30	18:00	ホテルルートイン青森駅前 青森県青森市荒川南荒川山地内 TEL:017-731-3611
	ホテルルートイン 青森駅前 ～ 酸ヶ湯キャンプ場	8:30	9:30	酸ヶ湯キャンプ場 青森県青森市新町1-1-24 TEL:017-731-3611
	10:00～12:00 酸ヶ湯キャンプ場 行政視察・昼食			
	酸ヶ湯キャンプ場 ～ 栗原市役所	13:00	16:00	

視察研修結果報告書

令和4年7月27日

栗原市議会議長 佐藤 千昭 殿



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1 期 間 令和4年7月5日～令和4年7月6日

2 視察研修先 ①能代エナジウムパーク

②酸ヶ湯キャンプ場

3 目 的








- ①六角牧場風力発電計画は騒音や土砂崩れ等の環境被害が予想される。先進地の能代エナジウムパークを視察し住民生活に与える影響について視察研修する。
- ②市では栗駒高原にキャンプ場を計画している。先進地の青森「酸ヶ湯キャンプ場」を視察し、持続可能で利用しやすいキャンプ場のあり方を視察研修する

4 調査研究内容

- ①能代エナジウムパークを視察し住民生活に与える影響について視察したが、建設当初から、住民説明が行き届き、県所有地の海岸沿いの土地を利用しているので騒音被害等はないという。近くの火力発電所と共に秋田県を代表する一大電力供給地となり、特に安全性に注力している。
- ②先進地の青森「酸ヶ湯キャンプ場」は国の環境省が土地、管理棟を建設し地域の代表的な温泉を運営する「酸ヶ湯温泉」に運営を委託している。
- キャンプサイトの景観は八甲田山麓を近くに望み、大パノラマの中にあり、キャンパーの人気も高いという。
- 利用料金は基本料として一泊500円、追加で芝生サイト500円、固定サイト1,000円、オートサイト2,000円となっており適正な料金と思料された。
- 面積は約3ha位だが、キャンプ場の広さとしては十分な面積であると思われた。

5 参加議員 尾形勝通



決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
				 	 

派 遣 承 認 要 求 書

令和 4 年 9 月 9 日

栗原市議会議長 殿

尾形 勝通 

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	令和 4 年 10 月 11 日 (火) 07 時 03 分から 令和 4 年 10 月 13 日 (木) 20 時 30 分まで
派 遣 先	余市町経済部農林水産課『北海道余市郡余市町朝日町 26 番地』 夕張市財政課財政係『北海道夕張市本町 4 丁目 2 番地』 はこだてみらい館『北海道函館市若松町 20 番 1 号』
派 遣 目 的	◎余市町が行っている 6 次産業化に関する施策や、地場産業に関する施策 (特区、ワインツーリズム) 等の独自施策の現地調査。 ◎夕張市が地方財政再建促進特別措置法に基づく、財政再建計画による財政再建を経て、地方公共団体財政健全化法に基づく、財政再生計画の策定に至った経緯や財政再建を行うために取り組んで来た具体的な内容等についての机上調査及び現地視察。 ◎内閣府で定める地方創生テレワーク施設でもあり、科学をベースとした多彩な最先端デジタルコンテンツを通して、誰もが「科学」を体験できる屋内型施設の開設経緯や、函館市の運営方法の現地視察。
経 費	旅費 86,850 円、 視察先視察料・施設入館料・視察先へのお土産代 6,136 円 レンタカー代 4,500 円、実費：高速料金、ガソリン代
派 遣 議 員 氏 名	尾形 勝通
議 長 依 頼 文 の 要 否	(要) ・ 否
備 考	その他参加者 高橋 渉・濁沼 一孝・菊地 広志・鹿野 芳幸・五十嵐 勇



米原中議云況余11任以

【会派名:市民くりはら】

日程: 令和4年10月11日(火)~10月13日(木)

月日	行 程	発	着	摘 要
10/11 (火)	くりこま高原駅 ~ 新花巻駅	7:03	7:37	J R新幹線はやぶさ95号
	新花巻駅 ~ 花巻空港			タクシー移動
	花巻空港 ~ 新千歳空港	9:20	10:20	JAL2830便
	新千歳空港 ~ 小樽駅	11:06	12:22	JR快速エアポート111号
	小樽駅 ~ 余市駅	12:34	13:00	JR函館本線
	昼食等			【町内】
	余市駅 ~ 余市町役場	14:00	14:20	
	【行政視察(机上調査)】 「6次産業化や地場産業について」	14:30	16:00	余市町役場 経済部 農林水産課 TEL:0135-23-2141
	余市町役場 ~ 余市駅	16:05	16:25	
	余市駅 ~ 小樽駅	16:47	17:12	JR函館本線
ホテル(小樽泊)			【宿泊先】 グリッツプレミアムホテル小樽 住所: 小樽市稲穂1-3-13 TEL: 0134-31-5801	
10/12 (水)	小樽駅 ~ 札幌駅	8:18	8:57	JR函館本線
	札幌 ~ 夕張市内	9:30	11:30	レンタカー移動
	昼食等			【市内】
	【行政視察(現地視察)】 「夕張市石炭博物館」	13:00	14:40	住所: 夕張市高松7番地 TEL: 0123-52-5500
	【行政視察(机上調査)】 「財政再建計画について」	15:00	16:00	夕張市役所 財政課財政係 TEL: 0123-52-3122
	夕張市役所 ~ 札幌駅	16:30	19:00	レンタカー移動(返却含)
ホテル(札幌泊)			【宿泊先】 アパホテルTKP札幌駅前 住所: 札幌市中央区2条西2-19TPK札幌ビル6F TEL: 011-252-3167	
10/13 (木)	札幌駅 ~ 函館駅	8:43	12:34	JR函館本線(北斗6号)
	昼食等			【市内】
	【行政視察(現地視察)】 「はこだてみらい館」	14:30	15:30	住所: 函館市若松町20番1号 キラリス函館3階 TEL: 0138-26-6000
	函館駅 ~ 新函館北斗駅	16:40	16:57	JR函館本線(北斗17号)
	新函館北斗駅 ~ 盛岡駅	17:26	19:13	J R新幹線はやぶさ44号(乗り換え)
盛岡駅 ~ くりこま高原駅	19:40	20:30	J R新幹線やまびこ72号	

様式第10号（第7条関係）

視察研修結果報告書

令和7年 3 月 21 日

栗原市議会議長 高橋 渉 殿

氏名 尾形勝通 (印)

視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1 期 間 令和4年10月11日～13日

2 視察研修先

- ① 北海道 余市町役場（経済部・農林水産課）
- ② 北海道 夕張石炭博物館
- ③ 北海道 夕張市役所（財政課財政係）
- ④ 北海道 はこだてみらい館

3 目 的

- ① 余市町の6次産業に関する施策やワイン特区やワインツーリズム等の施策を調査。
- ② 栗原市の細倉マインパークとの展示比較や、展示内容、運営方法の比較調査。



③ 地方公共団体財政健全化法に基づく、財政再建計画の策定に至った経緯や、財政再建を行う為に取り組んで来た具体的な内容についての調査。

④科学をベースにした多彩なコンテンツを通して、誰もが「科学」を体験できる屋内型施設の開設経緯や、函館市の運営方法の調査視察。

4 調査研究内容

別紙の通り。

5 参加議員

尾形勝通

調査研究内容

1 余市町役場 経済部 農林水産課

概要

①余市町 ブドウ栽培は生産者の栽培技術が高く、品質の良いぶどうが採れ、北海道のぶどう生産の半数以上が余市産となっている。比較的小さなワイン醸造所が多くあり、様々な銘柄で販売されている。

余市町はワイン特区となっており、少ない投資でワインの醸造ができる利点があり、新規就農でブドウ栽培ワイン生産に従事する農業者も増えてきたという。

②観光振興について、ワイナリーや蒸留所を中心とした観光資源を活かし、地域全体で観光ルートを整備し、観光客の滞在時間を増大し、新たな加工品等で消費額の増大を図っている。

③余市町は海産物も豊富で、特に余市産牡蠣は有名で食通が余市に多数通って来るとの事。ワインと牡蠣のマリアージュで「余市スタイル」を確立し、産学官連携強化しながらの産業戦略を推進している。

所見

余市町の6次産業化の政策推進に当たっては、まず初めに①生産技術の向上策を生産者団体と共に推進した事、②生産技術が高まり、生産量が向上すると、大手ワイン工場に供給するだけでなく、小さい経営の醸造所を支援したこと、③小さい醸造所を起業しやすくするため、ワイン特区という国の特区制度の補助を受けられる様にした事、④ワインと特産の牡蠣をかけたワインツーリズムという分野を開発し、支援したこと等

栗原市の6次産業化推進に当たってモデルとなる政策推進であると思料した。

2 夕張市石炭博物館

概要

道庁技師の坂市太郎が1888年石炭の大露頭を発見した事から「炭鉱の街・夕張」の歴史が始まったという。豊かで高品質の石炭を背景に炭都として栄え、24の炭鉱と12万人の人々がこの町で暮らしていたという。本館1階にはミュージアムショップやたいへん綺麗なトイレ（夕張一という）があり、2階では炭鉱の歴史を物語る資料や展示の常設展示場となっている。

所見

①夕張石炭博物館の教育的価値の活用について

博物館の展示内容を活用した学校教育プログラムやワークショップが充実しており、地域の子どもたちに次世代に語り継ぐ重要な役割を果たしていると感じられた。

②観光との連携

博物館を中心とした観光ルートの整備や他の観光施設と連携を強化し、観光人口を増やし消費を増大させようと努力していると思われた。

栗原市の細倉マインパークの展示や運営方法でも細倉鉱山の教育的価値の活用を図り、観光ルートの整備を行って観光人口を増やす工夫が必要と思われた。

3 夕張市役所 財政課財政係

概要

令和4年10月1日現在の夕張市の人口は6,830人で世帯数は4,111世帯、面積は広大だが人口が極端に少なくなり現在でも減少を続けている。

炭鉱で栄えた時は12万人の人口で、今では7千人弱となり税収は上がりず地域の経済不況は著しく財政再建の道は厳しい。財政悪化の要因は、炭鉱閉山、人口減少、観光施設への課題投資、行政体制の効率化の遅れ、不適正な財務処理等々、赤字の拡大に繋がっていった。

平成18年に財政再建団体に指定された。赤字解消額は353億円、標準財政規模の801%になる。計画期間は平成18年度から36年度（実質18年）との事であった。

所見

①財政再建の取り組み

地方公共団体財政健全化法のもとで財政再建計画を策定、徹底した行政のスリム化と、事務事業の見直しを図っている。市民生活に必要な最小限の事務以外は原則廃止、税率を見直しにより歳入の確保を図ろうとしており、引き続き効率的な行政運営と収入増加の両立が欠かせないと思われた。

②他自治体のへの教訓

当市の財政再建の歩みは同様の課題を抱える自治体にとって貴重な教訓となっている。財政再建途上では、議会で予算等を議決するときも総務大臣の許可が必要で、緊急を有する議案については直ぐには議決出来ない事が多いと聴き、市民生活を向上させる上で自治体の財政の健全化がいかに大切であるかを身をもって知ることとなった。

全国どこの地方自治体でも夕張市をわが市の事となりうる可能性がある事を肝に命じて、健全な財政運営に努めなければならないと強く感じられた。

4 はこだてみらい館

概要

①先端技術を活用した学びと交流の場

高精細 LED ディスプレイ「メディアウォール」やプログラム体験は地域の人々と観光客にとっての学びと交流の場となっている。

②地域全体の賑わいの創出

函館市の観光資源として修学旅行や団体利用に活用され、地域全体の賑わいを生み出しており、地域活性化と教育的価値を備えた施設となっていると感じられた。

所見

①函館市の先駆的取り組みは、観光資源として市内外の人、児童、学生にも利活用されており、わが市でも屋内遊戯施設の構想が将来考えられるが、その際、IT を利用した遊戯施設や親子が一緒になって楽しめる体験型の施設等の参考になるのではと感じられた。またその施設を観光資源として活用することを考慮してはと思った。